

ファン待望の立浪ドラゴンズ新監督

「新庄さんは新庄さん 私は私なりに」 「勝つ味を覚えて必ず結果出す」

2022年プロ野球シーズンを盛り上げるに違いない2人の新監督が誕生した。中日ドラゴンズの立浪和義氏（52）と日本ハムの新庄剛志氏（49）。弊誌は東海の経済誌として地元経済人のファンを代表して立浪氏にインタビューすることができた。「新庄監督は新庄監督。私は私なりに必ず結果を出します」と明言。頼もしい“立浪イズム”で我らの中日ドラゴンズを地元待望の高みに連れて行ってくれるはずだ。（聞き手は編集顧問・中西英夫、取材は11月30日）

秋季キャンプはすごく良い収穫

中西 待ちに待った嬉しい立浪ドラゴンズの誕生です。まずは監督としての抱負を聞かせてください。

立浪 任されたからにはチームを強くするというのが一番です。その次に、名古屋といえばドラゴンズです。自分たちの前の代からも築いていただいた伝統というものがありますので、そういった伝統はしっかり守りながら、皆さんに応援してもらえるチーム作りをしたいという風に思っています。

——率直に伺います。「投手陣に比べて打撃陣が弱い」とデータは示しています。その辺りの強化策は。

立浪 高橋周平や京田陽太、木下拓哉に、アリエル・マルティネスといった試合に出て頑張らなければならない選手たちはしっかり基本に戻って下半身を鍛える、体のキレを作り直すことだと思います。バッティングをもう一回見つめ直して、今年悪かったところを変えようという、そういう気持ちで秋季キャンプに入ってくれました。20日間ほどではあったのですが、来年はこの形でやるというようなところまでは来たかなと、すごくよい収穫だったと思います。レギュラーと言われている選手が頑張らないといけません。加えて若い選手が2つ、3つとポ

ジションを争ってくれるようになれば。来年の2月1日のキャンプまでのこのオフ、すでに競争は始まっています。チーム内でしっかりと争ってもらいたいなという風に思っています。

——やはり「競争」ですね。ドラゴンズの選手に欠けているのは競争意識ではないかと素人なりに思っていました。

立浪 選手たちはそれぞれの課題をしっかりと把握して秋季キャンプを終わっていると思います。要はこのオフの約2カ月間をどう過ごすか。秋に言われたことを自分のなかで消化して、考えて、計画性を持って練習してくる様に言っております。来年2月1日に入った時に良くなった、変わったなど思える選手が全員とはいかないと思いますが、出てきてほしいです。もちろん、オフの期間は義務的に練習するのではなくて、休むことも必要だし遊びに行ってもいい。「計画性を持って練習してくれ」とキャンプ最後の日に選手たちに伝えました。2月1日が非常に楽しみです。

——打撃コーチの方針がそれぞれ違うと選手が迷うということはありませんか？

立浪 1軍と2軍もですよ。1軍でこうやってやれと言い、2軍に落ちた時に別のことを言われる。ピッチングコーチもそうですが、中村紀洋、森野将彦、波留敏夫3人いる打撃コーチがしっかり連携を取りながら指導するよう片